

令和元年度 企画展（前期）

# 海と川と湖と

🌀 と き 令和元年8月29日(木)  
～9月23日(月)  
午前10時～午後5時

🌀 と ころ 2階 特別展示室  
(県立図書館と併設)

御巡幸関係書類 (930103-12011)



男鹿半嶋図 (地7)



田沢湖風景図 (AH291.7-3)

## 秋田県公文書館

〒010-0952 秋田市山王新町14-31

電話 018-866-8301

E-mail koubunshokan@pref.akita.lg.jp

U R L <https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsho/>

## ごあいさつ

今年9月に開催される「天皇陛下御即位記念第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」を受けて、昨年は「秋田と海」をテーマに企画展を開催しました。

今年はそれを発展させ、「海と川と湖と」をテーマに企画展を開催いたします。当館所蔵資料を通して、海と川と湖から豊かな恵みを授かってきた先人たちの歩みをたどるとともに、記録を残し伝えることの大切さを感じ取っていただければ幸いです。

令和元年8月

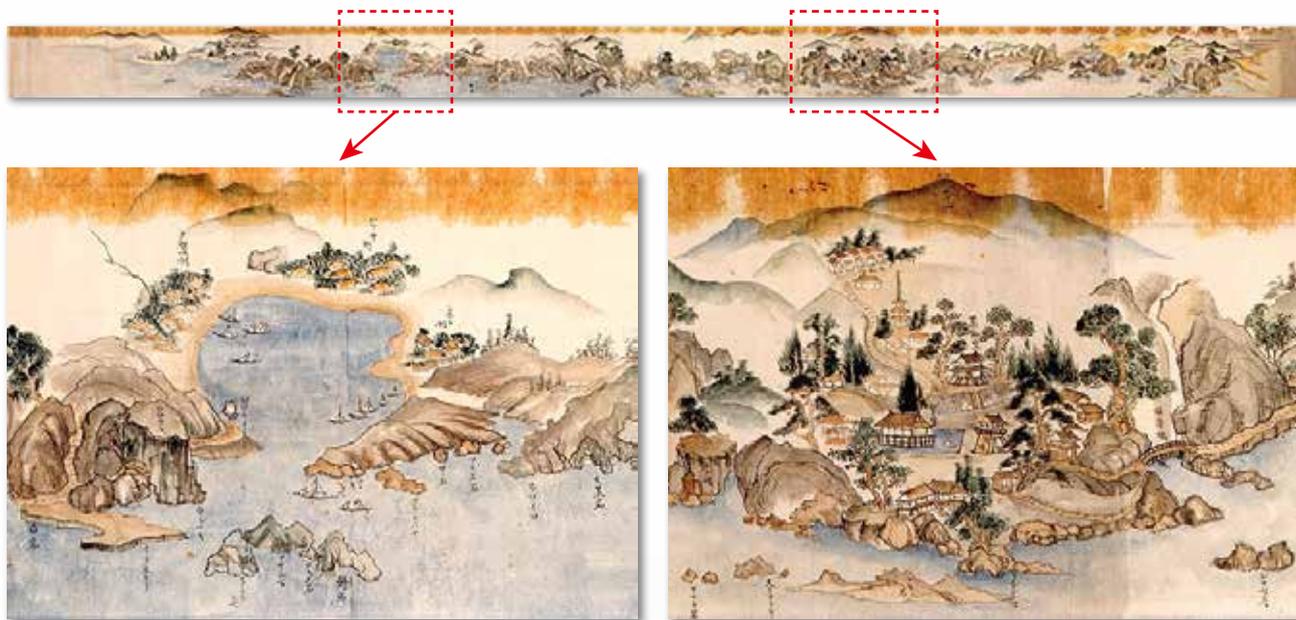
秋田県公文書館

## 秋田の海

江戸時代の男鹿半島や海岸線を描いた絵図からは、昔も今と変わらずに豊かな海から多くの恩恵を受けていた様子を感じられます。多くの廻船が能代湊や土崎湊など河口の湊を往来し、また漁業も盛んに行われました。江戸後期になると、対外情勢の変化への対応策も検討されました。

### 「男鹿半島図」(地7)

「男鹿半島図」は、長さが約5m弱に及びます。男鹿半島の景観が色彩豊かに描かれています。船による往来の様子や、歩く旅人の姿を見ることもできます。



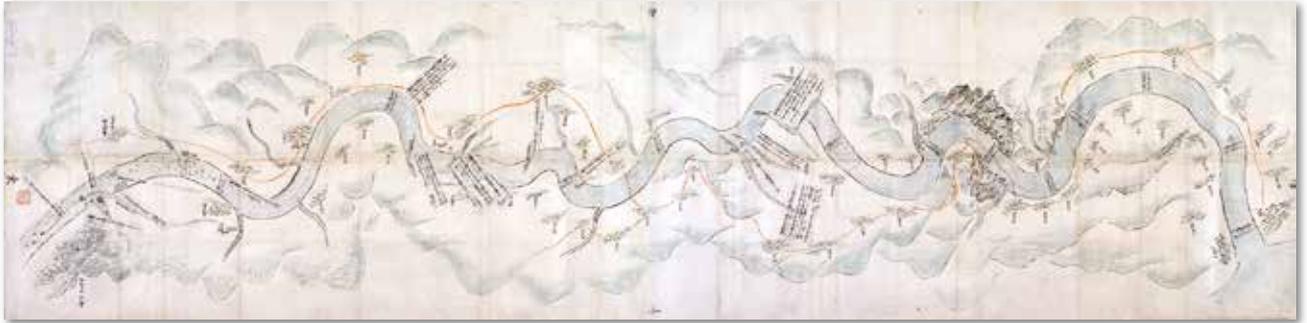
この2枚の絵は、「男鹿半島図」の一部です。左の絵には、戸賀湾と行き交う小舟が描かれています。また、ここに描かれている岩には「カゴメ石」や「鯨石」など、ユニークな名称が付けられたものも見られます。

右の絵には、鬼が999段の石段を積み上げたという伝説でも知られる赤神神社五社堂とそこに続く石段や門前付近の様子、男鹿三山(真山・本山・毛無山)などが描かれています。

# 秋田の川

日本海に注ぐ米代川や雄物川などでは、古くから舟運が盛んで、木材や鉱石、米などが運ばれました。また、河川漁業も盛んで、アユやサケなどが豊富に獲れました。「鵜飼」や「なめ打」など現在の秋田では見られない漁法も用いられ、一日で数百匹から数千匹獲れることもありました。

## 「米代川絵図」(A290-114-113)



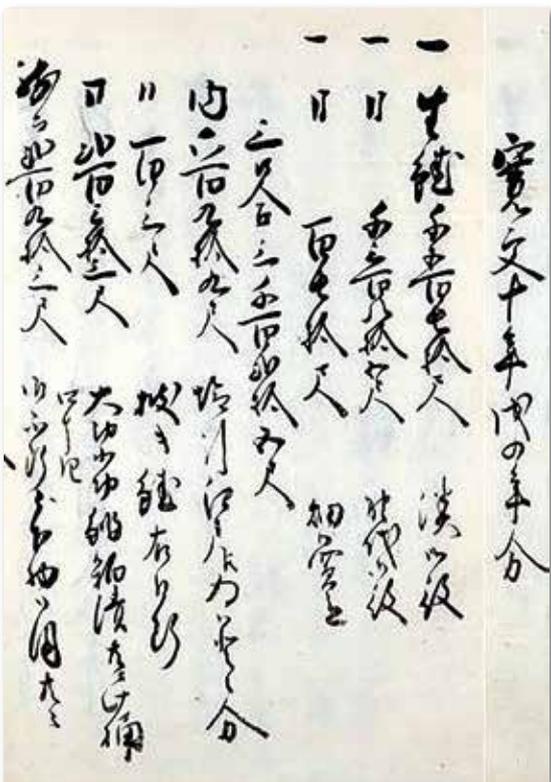
南部領国境から能代の河口に至る米代川流域の村々の様子を記した絵図です。各所の川幅や水深が記されています。米代川は木材や鉱石などを運ぶために利用されただけでなく、農業開発にも大きな役割を果たしました。米代川を水源とする水路と引水のための堰根留がいくつか見られます。秋田藩領と南部藩領の境目にある葛原村の用水は上流の南部藩内で米代川右岸に堰根留を築き、下流の山館村は157間(約285.4m)もの堰根留を築き取水していることがわかります。

## 「羽陰史略 四」(AH212-47-3)

寛文10年(1670)に雄物川(土崎)から1,570尾、米代川(能代)から1,385尾、男鹿から170尾の計3,125尾もの「生鮭」が秋田藩に上納されたと記録されています。また、そのうちの699尾は塩引き、103尾は開き(披き)にして、江戸に送られたことが記されています。

サケは、これ以外に、粕漬けや鮓などにも加工されました。展示史料の一つである「羽陰史略 二」(混架辛-29-2)には、秋田藩の使者が「鮭鮓」2桶を江戸の将軍家に献上したとあります。

淡水魚が豊富に生息した江戸時代の秋田では、サケやアユ、マスなどの漁が盛んに行われました。この史料は、その中でも主に雄物川や米代川で行われたサケ漁が、秋田を代表する河川漁業の一つだったことを物語っています。



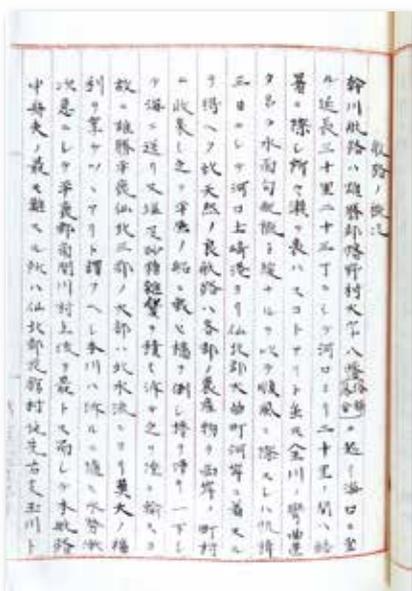
# 海運と港湾整備

明治時代、蒸気船が海運の便を飛躍的に発達させました。移出入量も増え、地元資本で汽船会社も設立されました。海運の発達は、大型船の入港を可能にする築港運動を盛り上げ、明治末から昭和にかけて港湾整備が進み、現在の秋田港などの重要港の発展へとつながりました。

## 明治8年「第一課駅遞掛事務簿」(930103-06283)

明治8年(1875)、大蔵省は郵便汽船三菱会社に年貢米の運漕を委託し、一方、僻遠地の往復海路を開くことも考え、東京・函館間に関門海峡及び津軽海峡経由で月1回汽船を往復させました。大蔵省は、県下の停泊地として適切な港を調査するよう秋田県に依頼しました。

秋田県は、右の「秋田県管下土崎船川両港口略図」を添付し、調査報告書を提出しました。報告書では、土崎港を県下最適の停泊地とし、最も交通の便の良い港であること、風波が荒れて停泊困難な時にはわずか6里(約23.6km)先の船川港を利用できることを理由として挙げています。しかし、土崎港は雄物川の土砂が河口に堆積して年々遠浅になり、後に港湾整備を必要とすることになりました。



# 河川舟運の繁栄

明治38年(1905)に奥羽本線が全線開通する以前の県内では、三大河川(雄物川・米代川・子吉川)が資源(木材や鉱石など)や食料(米、魚、塩、清酒など)などを運ぶ大動脈でした。雄物川舟運では、横手川との合流点である角間川<sup>かくまがわ</sup>の町が最大の川港として繁栄しました。

## 明治25~26年「河川調査書類」(930103-05364)

明治26年(1893)に国の土木監督署が作成した「雄物川流域河川調査書」では、雄物川について「湾曲部が多く、流れが緩やかな天然の良航路」と記しています。平時には、河口の土崎港から大曲の河岸まで3日で到達可能でした。また、この調査書では「仙北・平鹿・雄勝の農産物を兩岸の川港で積み込み、土崎港に下って汽船の海運につなぎ、土崎港から上って塩・砂糖・衣料・雑貨などを運ぶことで、莫大な富をもたらした」とも記しています。

# 秋田の漁業の近代化

明治時代には、水産資源の保護を目的に漁業取締が行われる一方、県水産試験場を中心に漁法や養殖技術などの近代化が図られました。また、明治末から大正にかけて、県内に動力漁船が普及し、昭和以後の沖合漁業や遠洋漁業の発展へとつながりました。

## 明治36年「第四課一係事務簿」(930103-07052)

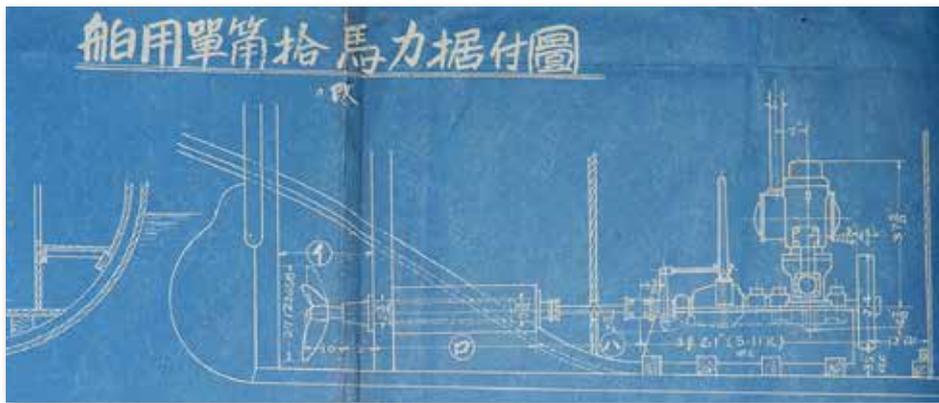
明治33年(1900)、農商務大臣の認可を受け、県水産試験場が南秋田郡土崎港町に設置されました。翌年、水産試験場の伝習規程が「秋田県報」(現「秋田県公報」)で告示されています。

水産試験場の規程と設備は年々整備され、同36年には試験用の漁船が新造されました。水産試験場は、新造船の標旗として右のデザインのものを作成しました。遠目からも識別できるように目立たせるため、赤い布地を使い、縦109cm、横133cmの大きさの標旗になりました。この標旗は、同36年



9月11日の「秋田県報」で県内に告示されました。

## 昭和2年「漁船改良補助書類」(930103-07215)



明治44年(1911)、由利郡の斎藤宇一郎らが、沖合漁業のため、先進地の技術者を招き動力漁船を建造しました。

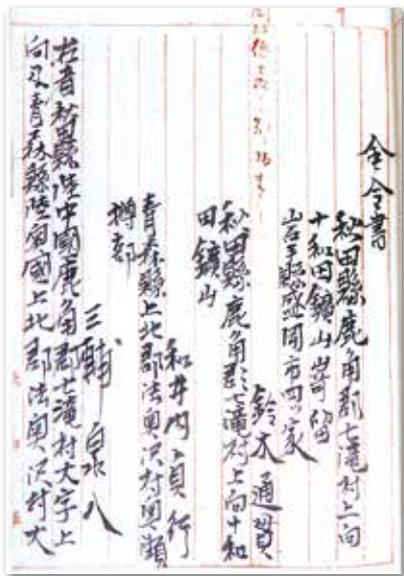
また、この年から秋田県で漁船改良補助金の交付が始まりました。

大正4年(1915)以後、沖合漁業用漁船の改良が進み、洋式船や和船に石油燃料の小型動力機を取り付ける方式が多くなり、帆走と併用した場合もありました。

この資料は、昭和2年(1927)に補助金で建造された小型漁船の動力部の設計図面です。船体は由利郡平沢町の造船所、動力機は東京市芝区の鉄工所で製造されました。由利郡本荘町沖から山形県の飛島までの沖合漁業に使われました。動力機を船尾のスクリューに連結しています。

# 十和田湖の養殖漁業

かつて十和田湖には、魚類が生息していませんでした。明治半ばから十和田湖での魚類の養殖が試みられ、幾多の困難や失敗を経て、人工孵化と放流による養殖に成功しました。特に、ヒメマスは和井内鱒として知られ、全国の湖沼に魚卵が配付されました。



## 明治26年「鹿角郡十和田放魚一件」(930103-07257)

明治26年(1893)10月14日付けで、秋田県知事 平山靖彦、青森県知事 佐和正の連署で、岩手県盛岡市の鈴木通貫、秋田県鹿角郡七滝村の和井内貞行、青森県上北郡法奥沢村の三浦泉八の3名に対し、十和田湖水の使用を許可する命令書が交付されました。命令書は全6条からなり、第1条には使用区域として「十和田湖全積面」と記されています。湖水使用权が認められたことにより、放流数を増やし、密猟者から養殖魚を守る看守人を湖岸に配置するなど養殖事業が本格的に始まりました。その後、和井内貞行は明治30年(1897)に会社を退職し、養殖事業に専心しました。

# 干拓前の八郎潟

干拓前の八郎潟は、湖沼面積が琵琶湖に次ぐ国内第2位の広さがある漁業が盛んな湖でした。シラウオ、チカ、ハゼ、ゴリ、フナ、ボラ、サヨリ、エビ、カレイなど多様な魚介類が豊富に獲れました。氷下曳網、張切網、打瀬網など特有の漁法も行われていました。

## 明治40年「水産試験場一件書類」(930103-07176)

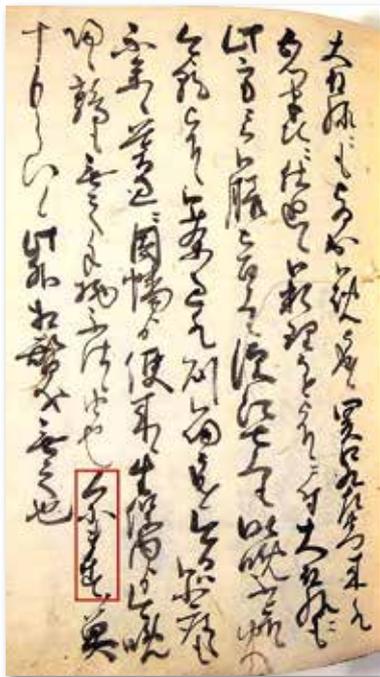
県水産試験場は、漁業者の参考にするため、湖面及び海面の重要魚類漁期一覧表を作成しました。漁期が赤い線で示され、天王、船越、大川、弘戸、一日市、下井河、大久保、鹿渡など湖岸の地域名が記されています。湖面の重要魚類19種のうち16種が八郎潟産であること、八郎潟では年間を通じて漁期があったことが記されています。

魚種	天王	船越	大川	弘戸	一日市	下井河	大久保	鹿渡	その他
シラウオ	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線
チカ	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線
ハゼ	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線
ゴリ	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線
フナ	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線
ボラ	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線
サヨリ	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線
エビ	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線
カレイ	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線	赤線

# 田沢湖のクニマス

江戸時代の田沢湖には、多くのクニマスが生息し、献上品や贈答品として重宝されました。「北家御日記」では、クニマスに関する記述を随所に見ることができます。昭和初期には、クニマス卵が他県の湖沼に分与されました。現在は、山梨県の西湖で生息が確認されています。

## 延宝2年「北家御日記 二」(AK212-1-2)



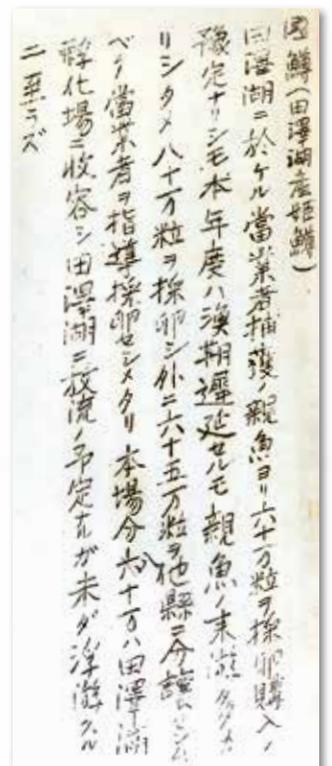
県指定文化財の「北家御日記」(全765冊)は、角館ところあすかの所預だった佐竹北家の日記で、220年間にわたって書き継がれました。その中には、かつて田沢湖で獲れたクニマスについての記述が計35件(江戸期16件、明治期19件)見られます。その加工の仕方には粕漬けや塩引きなどがあり、藩主らへの献上品としても重宝していたことがわかります。

この「北家御日記 二」の延宝2年(1674)8月16日の記事は、北家御日記にクニマスが登場する最古の記事です。使いの者を通して、大山いなば因幡という人物から「久尔末春ノ魚十」が北家当主に送られたというものです。「久尔末春」は当時の平仮名で「くにます」と読みます。北家御日記でクニマスがこの字で出てくるのは、この記事のみです。これ以後の34件の記事は、すべて「国鱒」の表記で出てきます。

## 昭和5年「水産試験場書類」(930103-07188)

大正15年(1926)、農林省の「水産増殖奨励規則」で、秋田県は十和田湖のヒメマス養殖の実績が評価され、多額の奨励金を交付されることになりました。そこで、当初は十和田湖産ヒメマス卵を人工ふか孵化して、田沢湖はじめ県内湖沼に放流する計画を立てました。しかし、十和田湖のヒメマスの不漁により、当時同種と考えられていた田沢湖のクニマスが代用されました。この資料には、「国鱒(田澤湖産姫鱒)」と記されています。昭和5年には、「田沢湖産ヒメマス」として、山梨県他に分与されています。

大正14年(1925)米国の魚類学者がクニマスを新種とする学説を発表していましたが、日本の学界で米国の学説を受容し新種と認めたのは昭和16年(1941)のこと。その前年、電源開発のため玉川酸性水が入られたことで、田沢湖からクニマスは姿を消してしまいました。しかし、クニマスは「田沢湖産ヒメマス」とされたことが、他で生き延びられる「パスポート」になりました。



展示資料一覧

コーナー	資料番号	資料名	年代
秋田の海	斧4416	証文（鮎干鰯取扱仕入、銭拝借の件）	天保10年
	AK212-1-694	北家御日記 六九四	天保6年
	AK212-1-695	北家御日記 六九五	天保6年
	県C-171	出羽国山本秋田河辺郡村々海岸絵図	嘉永4年
	イ11	信太理兵衛書状	文久3年
	山887	正月儀式覚帳	天保13年
	弥高145	自走火船図	弘化4年
	地7	男鹿半嶋図	
秋田の川	A290-114-113	米代川絵図	
	混架7-576-3	風俗問状答 3	
	村井3-2-10	写真（筏）	
	吉成999	秋田郡邑魚譚	昭和15年
	県C-48	秋田領峰吉川同領寺館村矢島領寺館尻引村地境争論絵図	延宝8年
	AH212-47-3	羽陰史略 四	
	混架辛-29-2	羽陰史略 二	
	AK212-1-128	北家御日記 一二八	正徳2年
	AK212-1-53	北家御日記 五三	元禄8年
	AK212-1-451	北家御日記 四五一	明和7年
	AK212-1-665	北家御日記 六六五	文政12年
	海運と港湾整備	930103-06283	第一課駅遞掛事務簿
930103-07911		秋田汽船株式会社一件	明治28年
DVD-00112		県政ニュース No.109	昭和43年
18-0170		秋田港2018	平成30年
930103-07877		第二課勸商係事務簿	明治9年
930103-07925		西洋形船、日本形船台帳	明治29年
930103-07910		秋田汽船会社創立発起人会決議	明治28年
930103-05432		第二部土木課事務簿	明治30年
930103-06125	船川港修築ノ儀ニ付港湾調査会ニ付議方稟請書類	明治40年	
河川舟運の繁栄	930103-05364	河川調査書類	明治25～26年
	930103-05358	米代川流域河川調査書	明治25年
	930103-05363	子吉川流域河川調査書	明治25年
秋田の漁業の近代化	930103-07052	第四課一係事務簿	明治36年
	930103-07215	漁船改良補助書類	昭和2年
	DVD-00021	県政ニュース No.18	昭和34年
	DVD-00027	県政ニュース No.24	昭和34年
	930103-07172	水産試験場書類	大正15年
	18-0099	さかなきた	平成29年
	930103-06575	第二課農工商係事務簿	明治24年
	930103-07008	第二課農工商掛事務簿	明治25年
	930103-06577	第二、三課農工商係事務簿	明治26年
	930103-12011	御巡幸関係書類	明治14年
	930103-07156	請願及陳情書類	昭和4年
	930103-07143	内務部勸業課事務簿	大正2年
18-0095	秋田旬の地魚 一県内各地の漁港から一	平成22年	
十和田湖の養殖漁業	930103-06982	勸業課農商部事務簿	明治19年
	930103-07257	鹿角郡十和田放魚一件	明治26年
	930103-07263	十和田湖区画漁業二関スル書類	大正10年
	DVD-00042	県政ニュース No.39	昭和36年
田沢湖のクニマス	AH291.7-3	田沢湖風景図	明治44年
	AK212-1-2	北家御日記 二	延宝2年
	AK212-1-562	北家御日記 五六二	文化2年
	AK212-1-707	北家御日記 七〇七	嘉永4年
	930103-07187	水産試験場書類	昭和2年
	930103-07188	水産試験場書類	昭和5年
	19-0157	『田沢湖とクニマスの未来』パンフレット	平成30年
干拓前の八郎潟	930103-07176	水産試験場一件書類	明治40年
	930103-07077	第三部農務課事務簿	明治40年
	930103-07075	第三部農務課事務簿	明治40年